



校長室だより

第 4 0 号
(通算第 9 3 号)
令和4年12月6日(火)
大崎市立沼部小学校
校長 吉田 浩之

人権週間

校内テレビ放送で、朝会を行いました。人権週間にちなんだ話をしました。

12月4日から10日までは「人権週間」です。日本全国、毎年同じ期間に人権週間があります。「『誰か』のことじゃない」というのが大きなテーマです。

人権とは、人のもつ権利のことです。1年生や2年生の皆さんには、少し難しいことかもしれませんが、人権とは、やさしく言うと、自分以外の人も自分と同じように大切にすること、誰とでも仲良くすることです。やさしそうなことなのですが、とても難しいことなんです。だから、日本全国で1年に1度、大人も子供も、改めてこの人権ということについて考えるために、人権週間というものが設定されました。

人権と聞いて、みんなが真っ先に思い浮かべてほしいことは「いじめはだめなこと」ということです。人間は完璧ではありません。自分のことが中心になりがちです。そのことが相手を傷つけ、いじめ問題につながることもあります。「いじめ」はよくないこと、人を傷つける行動であることは誰もが知っています。なぜ、「いじめ」がなくなるのでしょうか。人間は一人では生きていけません。必ず家族以外の人と関わりをもつシーンが訪れます。学校はその際たる例で、合う合わない、好き嫌いに関係なく、誰かと一緒に行動することが求められます。

もちろん、どんな人ともうまくいくとは限らないでしょう。むしろ、うまくいかないことの方が多いかもかもしれません。だから、いじめが起こったり、陰で互いの愚痴や悪口を言い合ったりすることが、残念ですが、なくなるのです。「みんな仲良ししている」ということは、とっても難しいことです。

みんなが生きていく社会では、障害をもったひと、外国の人、自分の考えと違っている人を受け入れることが大切なこととなります。ほかの人との違いを認めながら、自分らしさを発揮していく力が求められるようになります。「ちょっとあの人、私と違うから無視しよう。」なんて思っているぬまっこはいないと信じています。無視することはいじめの始まりということをしっかり覚えておいてほしいのです。一人一人の違いを認める広い心をもった人間性を身に付けることが、いじめをなくすことだと校長先生は思っています。

国連の持続可能な開発目標(SDGs)という言葉が、最近よく耳にするようになりました。SDGsは「誰一人取り残さない」社会を実現するということを掲げています。そのためにも私たち一人一人が、自分以外の人を思いやることができることが大切なのだと思います。学校で学んで、社会に出たときの力とするために、これからも誰とでも仲良しになろうという気持ちで、よりよく生活していきましょう。



ぬまっこはいろんなところで頑張っています。賞状がたくさん届きましたので、校内での表彰も行いました。受賞した皆さんおめでとうございませう。

サッカーワールドカップでは、日本は残念ながらクロアチアに敗れ、ベスト8進出は叶いませんでした。しかし、延長戦まで粘りました。また、予選リーグでは、強豪ドイツや、スペインに勝っています。すばらしいことだと思います。特に、スペイン戦では、コスタリカに敗れた後、選手たちはあきらめずに、前を向いて試合に臨み、勝つことができました。「あきらめない気持ちを持ち続けること、大事だね。」とも子供たちに話しました。